

## 高校野球と武士道精神

### Highschool and spirit "Busidou"

1K08B053-5 柏木悠

指導教員 主査：リー・トンプソン先生 副査：友添秀則先生

#### 【第1章】一序論一

高校野球と武士道精神との間には、どのような関連性があるのでしょうか。高校球児に対する「さわやか」「一生懸命」「伸び伸び」といったイメージがどのように根付いたのか、武士道精神がどのように受け継がれてきたのか、これらを明らかにすることが本論文の研究目的である。先行研究によると、武士道精神の特徴的な思考として「勝利至上主義」「精神主義」「集団主義」「犠牲的精神」「敢闘精神」「マニュアル教育」が挙げられている。これらのキーワードを中心に調査を行う。文献調査に重ね、スポーツを「観る側」の視点からアンケート調査、スポーツを「する側」「支える側」の視点からインタビュー調査を実施し、総合的に考察を行う。

#### 【第2章】一武士道野球の歴史一

主に文献を用いて調査を行った。ベースボールが日本に伝来してから、現在の高校野球の形が出来上がるまでの期間を調査対象とし、特に武士道精神との関連性について重点的に調査した。一高で日本独特の野球イデオロギーが生まれ、現在に至るまで、高校野球と武士道精神は、非常に密着した関係性を保ってきたことが分かった。

#### 【第3章】一現在の高校野球一

高校野球の現状について、調査を行った。「高校生らしさ」「マニュアル教育」といった、武士道精神から影響を受けていると考えられる分野に絞った。観客は、「正々堂々」や「さわやか」、「伸び伸び」といった高校生らしさに、武士道精神を観ていることが分かった。また、日本人のスポーツ観やマニュアル依存型社会によって、上の立場の人間から特定の行動様式が与えられることを当たり前のように感じているということも分かった。こういった、日本人の国民性が甲子園を国民的行事にする手助けをしたと言っても過言ではないだろう。

#### 【第4章】一アンケート調査一

一般大学生 92 名を対象に高校野球のイメージ調査を行った。質問内容は、武士道精神に関する項目を 5 つ並べた。その結果を踏まえ、スポーツを「観る側」の視点からの高校野球のイメージを考察した。このアンケート調査から、現在においても、高校野球と武士道精神が関連性を持つことは、明確となった。

#### 【第5章】一インタビュー調査一

現役高校球児 2 名、高校野球 OB 2 名、高校野球指導者 2 名、計 6 名の高校野球関係者を対象にインタビュー調査を行った。主な質問内容は、武士道精神と高校野球の関連性を問うものとした。主に「勝利至上主義」「精神主義」「坊主頭について」「高校野球の伝統」の 4 項目を質問内容とし、スポーツを「する側」「支える側」の視点から、高校野球と武士道精神の関連性について、考察を行った。このインタビュー調査から、現在の高校野球と武士道精神が密着に関わっていることが明確であった。

#### 【第6章】一考察一

本論文の総合的な考察を行った。序論で挙げた武士道精神の特徴的な思考、「勝利至上主義」「精神主義」「集団主義」「犠牲的精神」「敢闘精神」「マニュアル教育」に対して、各考察を行った。文献調査、アンケート調査、インタビュー調査を照合しながら、高校野球との関わり方を分析した。現在の高校野球において、大会規則や運営方法、選手のプレーや行動、選手と指導者の関係、観客の視点など、様々な形式から武士道精神との関連性や名残を発見することができた。その背景には、俗化を嫌うという武士道精神の特徴や日本人のスポーツ観、「凡てを正しく、模範的に」をモットーに開催され、継承され続けてきた全国選手権大会などが挙げられる。こういった様々な要素に関わりあって、現在の夏の風物詩、国民的行事、「甲子園」が生まれ、高校生らしさといったイメージが人々に定着していったのだと考えられる。